

広島における水辺利用の仕組みづくりに関する一考察

熊本大学工学部社会環境工学科 学生会員 ○穴井美紗
熊本大学政策創造研究教育センター 正会員 田中尚人

1. はじめに

1997 年（平成 9）の河川法改正により、河川環境の整備と保全が目的に加えられ、現在都市域の水辺は利用者が安らぐことのできる空間としての認識が高まり、「川まちづくり」が推進されている。特に、古くから雁木を利用した舟運など水辺と市民の生活が密接な関係にあった広島では、川まちづくりが活発に行われており、水辺は市民や来訪者によって、休憩や散歩などさまざまな利用がなされている。そこで、本研究では、広島において活発な水辺利用を促す仕組みづくりを明らかにすることを目的とした。

2. 広島における川まちづくりの特性

本章では、まず研究対象地の概要を示し、既往研究、基礎文献、ヒアリング調査などに基づいて、第二次世界大戦後広島の水辺に関する出来事の履歴を整理した。

2.1 研究対象地の概要

広島のみちは、1945 年（昭和 20）8 月 6 日の原子爆弾投下によって焦土と化した。その後の復興過程と水辺の変化を、表 1 に示す。1952 年（昭和 27）の「広島平和記念都市建設計画」は、広島の水辺における河岸緑地の重要性を考えるきっかけとなり、水辺を広島の顔として整備する方針が進められ、河岸緑地を中心とした土地区画整理事業が展開されてきた。1990 年（平成 2）に「水の都整備構想」¹⁾、2003 年（平成 15）に「水の都ひろしま構想」²⁾ が策定され、現在のような川まちづくりの体制がつくられた。河岸緑地は広島にとって重要な地域資産であり、活動の場となる。

表 1 水辺での活動の変遷

年代	出来事	設計・計画形態、水辺の印象
昭和20年	第二次世界大戦終戦	近隣の江山一帯にも、水辺の重要性は描かれていた。
昭和21年	復興都市計画道路・公園・緑地が整備	・河岸沿いの緑地を沿った緑地公園整備が重要と考えられた。
昭和24年	平和記念都市建設法制定	・都市と水辺は繋がっていない印象が一般的だった。
昭和27年	「広島平和記念都市建設計画」が策定	・戦前通りに家屋がびっしりと並んだ水辺にオープンスペースが確保される
昭和40年	太田川放水路が通水	・河岸の住宅の立ち退きが本格化し始めた。
昭和42年	河岸緑地整備四年計画	・橋梁部のアンダーパス（川沿いの遊歩道）が積極的に計画された。
昭和43年	広島市河川緑地整備基本計画が策定	・川とまちが連続している印象があることを意識し、公共空間のまとまりをイメージとして捉え直した。
昭和45年	建設省による河川の高潮対策事業開始	・美観への対応、自転車への対応などを図るために再整備を進めることになった。
昭和48年	美観環境整備完成	・中計研究室と建設省太田川河川工事事務所の協働による河岸緑地
平成2年	「リバーフロント景観整備等景観形成協議制度」策定	・水辺の環境整備型「遊歩道」竣工
平成3年	元安川橋詰取水工事、竣工	・太田川放水路に魚道を設置し、アマノ、ゲンジボタルの幼虫などを放流
平成6年	アジアカペ「第一回」開催	・中地区域づくり交流会など、水辺の「景観」という意識から、「まちづくり」という意識へ変化した。
平成7年	阪神・淡路大震災、広島県下各地で震災活動開始	・水辺へのアクセスを確保するために、河川空間に公園空地の導入が可能かどうか議論が高まった。
平成9年	元安川オープンカフェ社会実験	・水辺へのアクセスを確保するために、河川空間に公園空地の導入が可能かどうか議論が高まった。
平成11年	河川の清掃活動	・水辺へのアクセスを確保するために、河川空間に公園空地の導入が可能かどうか議論が高まった。
平成12年	太田川の治水プロジェクト	・水辺へのアクセスを確保するために、河川空間に公園空地の導入が可能かどうか議論が高まった。
平成14年	水の豊かなまちづくり（新築再生プロジェクト）	・水辺へのアクセスを確保するために、河川空間に公園空地の導入が可能かどうか議論が高まった。
平成15年	「水の都ひろしま」構想策定	・水と交通を運営
平成16年	景観法制定	・水と交通を運営
平成16年	ふれあい水辺フェスティバル、NPO法人緑地立、苗木タラシ、運行開始	・苗木の現代的利用が復活
平成16年	河川まちづくり交流会など、水辺の「景観」という意識から、「まちづくり」という意識へ変化した。	・市民活動が活発化してきた

2.2 川まちづくりの歴史

現在の川まちづくり体制の土台である「水の都整備構想」と「水の都ひろしま構想」を中心とした水辺での活動についてまとめる。「水の都整備構想策定」以降、アソシエーションや行政の取り組みとして清掃活動やオープンカフェ事業の社会実験など、水辺での活動がよく見られるようになったが、市民の活動はあまり見られなかった。しかし、2002 年（平成 14）に「水の都ひろしま推進協議会」が設置され「水の都ひろしま構想」策定の前後から、市民の活動が活発になった。また、現在の水辺利用の仕組みとして、「つかう・つくる・つなぐ」という基本方針が立てられており、広島の水辺では、水辺空間を「つくる」だけでなく、「つかう」ことまで考えた川まちづくりが展開されている。

3. 空間特性の把握

水辺利用の仕組みづくりの基本方針の内、「つくる」に着目し、空間構成要素を抽出し整理することで、河岸緑地における水辺利用を促す空間の特徴を明らかにした。

3.1 空間構成要素の概要

図 1 に、河岸緑地と人をつなぐ空間構成要素を整理する。

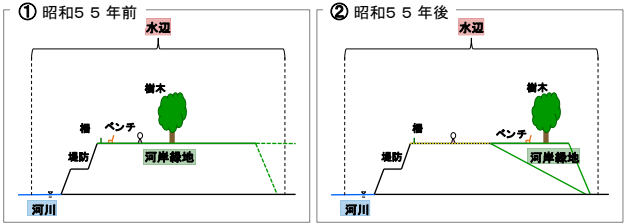


図 1 河岸緑地の構成要素

広島河岸緑地は大きく 2 種類存在する。1980 年（昭和 55）に建設省による河川の高潮対策事業が開始されると、広島市役所と協働して河川と周辺地域をつなぐ河岸緑地の整備が開始された。その中で、河岸緑地整備の一環として、水辺空間の構成要素である柵、ベンチ、樹木が設置された。

3.2 調査対象地

3.2.1 1978 年（昭和 53 年）の特徴的区間

1978 年（昭和 53）の「広島市河岸緑地整備基本設計」³⁾において、河川の高潮対策事業による護岸改修計画を具体化するために、現存する河岸緑地との調整が必要であると

提案され、河岸緑地の特徴的区間として設計案が 10 ヶ所示された。1978 年（昭和 53）の河岸緑地計画図面と同地の現況を比較し、同区間の整備の変化を見る。図 2 は、京橋川右岸の河岸緑地整備の計画案と現況を示したものである。

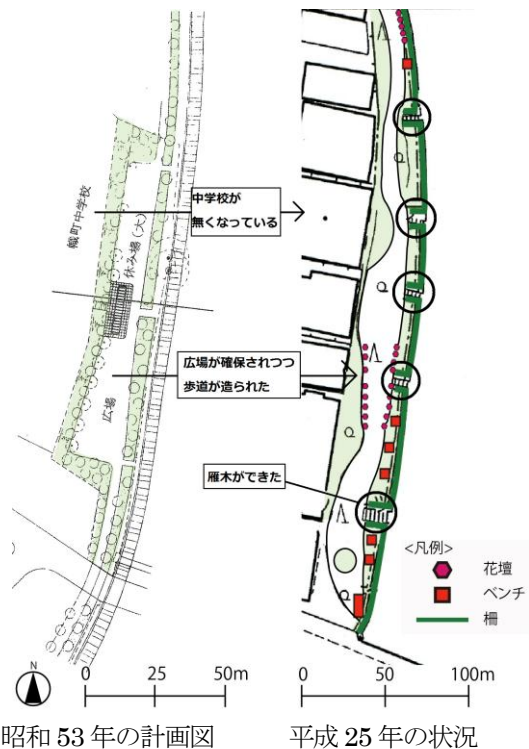


図 2 整備計画前後の比較

3.2.2 その他の特徴的区間

実地踏査等から現在見られる特徴的な区間を 4 ヶ所抽出し、表 2 に示した。また、写真 1 は、地域の自治体が積極的に管理運営しているコミュニティガーデンが広がっている、特徴的区間の一つといえる河岸緑地である。

表 2 現在の特徴的区間

場所	特徴
京橋川	コミュニティガーデンが広がっている
猿猴川	人工的なモニュメントが多く設置されている
旧太田川	初めて専門家と行政機関が協働で設計した河岸緑地、基町環境護岸がある
元安川	観光客の多い原爆ドーム周辺



写真 1 現在の特徴的区間の一例

3.3 主要な空間構成要素の計画・設計思想の整理

文献調査やヒアリング調査などから、柵、ベンチ、樹木・植栽について、計画・設計意図を明らかにした。
柵：2001 年（平成 13）からの規定で、色はアーバングリーン、高さは 80 c m に統一されている。

ベンチ：市民の寄付によって設置された市民ふれあいベンチが普及している。

樹木：1990 年（平成 2）から各川にテーマ木が決められた。

3.4 水辺の空間構成要素の特徴

図面から、各場所における空間の比較を行い、現状空間を分析する。

4. 仕組みの特性把握

水辺利用の仕組みづくりの基本方針のうち「つかう」と「つなぐ」に着目し、「水の都ひろしま推進協議会」の活動に焦点を当て、河岸緑地における水辺利用の主体とルール、及びその仕組みづくりの特徴を明らかにした。

4.1 空間構成要素の概要

「つかう」に関する仕組みとして、水辺のオープンカフェや水辺のステージ等、水辺を利用する事業の社会実験が積極的に行われている。「つなぐ」に関する仕組みとして、水辺空間利用のルール作りとその普及や水辺での活動支援を担う組織づくりが行われている。現在は、水の都ひろしま推進協議会が中心となり水辺の管理・運営を行っている。

4.2 ルールを運営する組織の変遷

水の都ひろしま推進協議会ができるまでの組織の流れをまとめる。1988 年（昭和 63）に水の都整備構想策定委員会が設立して水の都整備構想が策定され、2001 年（平成 13）に新・水の都委員会が設立して水の都ひろしま構想が策定された。2002 年（平成 14）には、水の都ひろしま推進協議会が設立し、水の都ひろしま推進計画が策定された。

4.3 水の都ひろしま推進協議会の概要

社会実験の基本的な進め方や実施のための前提条件、市民と行政の役割分担、関係施設の整備等、「水の都ひろしま」の実現に関する事項について、審議、報告、意見交換を行い、「水の都ひろしま推進計画」の具体化に取り組む。

5. おわりに

広島の水辺では、「水の都ひろしま推進協議会」が中心となって「つくる・つかう・つなぐ」という水辺利用の基本方針と、各主体が協働する仕組みづくりが、よく機能していることが分かった。最後に、調査にご協力及び資料を提供して頂いた広島市役所の方、国土交通省太田川河川工事事務所の方、広島雁木研究会の方に深く感謝の意を表する。

【参考文献】1) 水の都整備構想, 1990 2) 水の都ひろしま構想, 2003 3) 広島市河岸緑地整備基本計画, 1978 4) 篠原 修：土木学会編 新体系土木工学 59 土木景観計画, pp200-217, 1994